

特集

Non-vascular IVR

“ノンバス”って、 なんだ!?

ノンバス。救急医にとって、あまり聞き慣れない言葉かもしれません。

今号の特集では、X線透視や超音波、CTによるガイドを駆使して効果的かつ安全性高く、経皮的に穿刺・ドレナージを行う血管系以外の画像下治療 = Non-vascular IVR、すなわち“ノンバス”を取り上げます。

IVRは、放射線診断学の進歩に伴って開発された、低侵襲治療の代表ともいえる治療法であり、放射線医学の大きな一分野ともなっています。血管系のIVR = vascular IVRである経カテーテル動脈塞栓術（TAE）などは、救急医療の現場でもお馴染みでしょう。一方でノンバスは、従来であれば手術適応となる疾患や病態、あるいは術後の合併症にも応用できる低侵襲治療であり、救急現場においても重要な選択肢となり得ます。「ドレナージならよくやるよ」という方もいらっしゃると思われそうですが、高度な放射線診断学と繊細な穿刺手技の組み合わせにより、旧来のイメージを超えたノンバス治療が可能となりました。本特集では、このノンバスの“匠”である先生方から、もてる知識と技術の一端をご披露いただきます。

具体的には、そもそもノンバスとは何かというイロハから、穿刺ガイドとして欠かせない画像診断に関する知識、そして多様な疾患・病態に対するノンバス治療の適応と手技のポイント・ピットフォールについてご解説いただきました。とくに、救急現場で遭遇する疾患・病態に対しての治療オプションとなり得るノンバスを中心に取り上げていますので、その知識と技術の共有・普及は、適切なノンバス治療の判断材料となるはずです。

ノンバスは高度な技術を要する治療法でもあり、「これを読めば明日からすぐできるようになる」というわけではないでしょう。しかし、ノンバスという治療法を正しく理解し、その可能性を学んだ救急医が増えることは、救急医療における診療の幅を広げ、患者にとってよりよい治療の選択につながるはずで、本特集が、そのきっかけになることを期待しております。

『救急医学』編集委員会

企画担当：堺市立総合医療センター救命救急センター 白井 章浩